



光桂寺だより

第220号

真宗大谷派 光 桂 寺 〒838-0133 福岡県小郡市八坂201
TEL 0942-72-2432 FAX 0942-72-2486 印刷 片山印刷(有)

御正忌報恩講ご案内

今年も残り少なくなつて参りました。十月中過ぎから急に寒さがやってきておりますが、皆様には何かとお忙しい毎日をお過ごしのことと思います。

今年は色んなことが多すぎて、目まぐるしい一年間となつています。非常事態宣言や蔓延防止を繰り返しながら、新型コロナウイルスの流行は五波まで進み、終息していない現状です。流行からは色んな問題が起こり、まだ進行中であります。オリンピックはどうやら終わりましたが、感動を生むには、少し淋しかったように思えます。

首相も交代しました。斬新で効果のある取り組みが待たれるところでしょう。この光桂寺だよりを発行の頃には、衆議院議員も選ばれて、新たな出発が始まっていることでしょう。新しい年に向つて、希望が沸く政治活動が待たれます。

さて真宗大谷派では、親鸞聖人のご命日に合わせて、京都の東本願寺では、十一月二十一日から二十八日まで、ご正忌報恩講が動きます。

親鸞聖人をはじめ、念仏の教えに生きられ、念仏の道を先に歩まれた先達にも思いをいたし、その恩徳に感謝し、報いる法要が「報恩講」であります。

当光桂寺では、毎年十二月十七、十八日の両日報恩講を勤めております。今年最後の法要であります。どうかお誘い合わせのうえ、ご参詣くださるようご案内いたします。

期日 十二月十七日(金)・十八日(土)

○おととき 正午

○おつとめ 十三時

○法 話 十四時

講師 徳常寺様

※お世話前 十七日 城、京手、十楽

十八日 平方、光行、

古飯、宝城団地

よろしくお願いいたします。



講師紹介
塚本 慈頭 師
みやき町
浄土真宗本願寺派
徳常寺前住職

永代経志ご寄付者ご芳名

誠にありがとうございました。

十月

様

庫裏建設懇志金のご協力

誠にありがとうございました

十月九日現在で、早くも二一軒の方々からの納入を頂きました。その中には既に完納いただいた方が一五四軒、目標額を上回つてのご寄付を頂いた方もあり、誠に感謝に耐えません。ありがとうございます。この時点での納入額は、目標額の五十九%であります。何とか建設費に必要な額が達成出来ればと思っております。今後ともよろしく願っています。

上山奉仕中止のおわび

皆さんに呼び掛けておりました本山への上山奉仕の件、諸般の事情の為、今年度も中止となりました。また機会を作りますので、今回申し込みにされなかった方も含め、思い立ちをお願いしておきます。

これからの庫裏建設のスケジュール

二〇二二年度	三月 解体工事着工
	五月 本体工事着工
二〇二三年度	二月 竣工
	三月 整地
	五月 完成

おぼん(初おぼん)の法要次第

○十二月十七日(金)

十八時	お勤め
十八時三十分	お話と茶話会
十九時	お開き

「初おぼん(初めて迎える報恩講)」は、初盆と同じように考えていただきますと分りやすいのですが、昨年の十二月から今年の十二月までの間に亡くなられた方のお宅で「報恩講(報恩感謝の法要)」として執り行なうものであります。

今年も「初おぼん(初めて迎える報恩講)」を、昨年同様「おぼん」と合わせて執り行う事としました。

「初おぼん」に該当なさるお宅に呼び掛けて、十二月十七日に光桂寺にお出でいただき「初おぼん」をご一緒に勤めます。今まで「初おぼん」として各お宅にお参りしていた地域の方は、自宅ではなく本堂での「初おぼん」となります。

先に申しましたとおり、これまでご案内をしていた「おぼん」の法要と合わせて行う事となります。

婦人会追弔会の

講師の講話要約

お彼岸入りの九月二十日に、光桂寺仏教婦人会の追弔会の法要が行われました。講師の蒲原師のお話を、十分に内容をまとめきつてはおりませんが、お読みください。

「気がつく」という字びから
心の柔軟心(にゅうなんしん)が
生まれる



蒲原 総彦 師

普段の日常生活の中では、想定内の、「思いの自分」と「真実の自己」というものが、混在しながら『わたし』として存在しています。ところが非日常の想定外の体験に出遭うと、理解不能の「真実の自己」の姿がときに顔を出すのではないのでしょうか。

仏法は、自分が自分の思いだけで自分を捉えているか、世界を見ているかに気付かせていただくのであります。

私たちは分析的な知恵でもって「自分を知らる」、自己を捉えているのではないのでしょうか。そこには見る自分と見られる自分というのが、必ず分けられるのです。それでは見られる自分は分っても、それを見ている自分は、見えていないということでしょう。

自分のことは自分がちゃんと分っていると言わなければならない。実は仏法の世界から見ると、見る自分ということに気付いていないということでありましょう。私の思いを超えたはたらき、仏法のはたらきに出遭うことで、自分ということが照らされて、全体が見えてくるということでもあります。

私たちが作り上げた幸福の公式というのは、実は人間の頭の中でつくった世界であります。それが私たちを縛っているのに、真実かどうか真剣に問うていない、疑問も持たないのです。私たちの思いの中で右往左往しているのです。

人間の頭の世界を超えた世界に出遭うと、そのまんま「私が私で良かった」というといえる世界を生きさせてもらえる、そういう世界がある。

るということに気付かせてくれるのが仏法でしよう。自分自身がもうどうしようもない、逃げ出したいと思っている思いが転ぜられてくる、そのまんまでちゃんと歩いていける、これが仏法のはたらきだと思います。

自分全体のすがたを知らせてくださる教えとか光というものに出遭う必要があります。浄土真宗では、教えを聞くこと、聴聞という事で、本当の自分が知らされるのであります。

教えに出遭って、頭が下がった時、柔軟（にゆうなん）な世界が開かれてくる、そういうところに私たちが生きる上で、大事な眼や大事な視点が芽生えるということでしょう。「私の中の」とか「私が」ということが、私たちの思いの中にはいつも存在しているから、「私の」と「私が」とがぶつかるといざこざが起るのです。硬い心「固まった心」というのは世の中を暮らしていくのには不便なものでしょう。気がつくという学びから、心の柔軟心（にゆうなんしん）が生まれるのであります。

庫裏建設についての経過をお知らせします

○庫裏建設委員会

十月十日

- ・ 厨房等の図面の検討をし、一部検討を今後することとし、概ね現図面を了承した。
- ・ 庫裏建設懇志金の納入についての意向調査の回答状況を確認

約六十一パーセントの回答あり

- ・ 納入状況を確認
- ・ 二一軒の納入あり（内 完納一五四軒）
- ・ 納入総額は目標額の五十九%

○光桂寺総代会

十月十日

- ① 建設委員会より経過報告意向調査の回答状況を確認
- ② 納入状況を確認

② 光桂寺総代会の協議事項

- ・ 懇志金のお礼状や受領証の発行については、今後検討し行う
- ・ 信徒に対しても、光桂寺より懇志金ご依頼の便りをする
- ・ 今年度の本山納金は、例年通り七千円とすることを決定

③ 年間行事について

三月十八日

婦人会総会

おとき無し

十三時よりお勤め

十四時より法話

これ以降の法要は基本、庫裏が建設されるまでおとき無し
十三時よりお勤め
十四時より法話

④ 本堂に上る石段の所に手すりを設置

十楽の「平山美江子」さんからの寄贈を披露

○光桂寺門徒会総代会

十月十六日

総代会からの提示事項を概ね了承

秋の永代経勤まる

秋の永代経は、無事勤めることができました。参詣の方も昨年よりはやや少なかったものの、講師の先生のお話を熱心に聞いていただき誠にありがとうございました。

本山納金のご依頼をいたします

毎年お願いいたしておりますが本山納金、今年もどうぞよろしくお願いいたします。
総代さん、世話人さんを通してか、振込みや書留、現金によりお納めください。

○今年度の本山納金の負担額 7千円

※二〇二一年度の光桂寺の納金の額

・ 一、〇二三、六〇〇円（本山ご依頼額）

・ 一三六、二〇〇円

（聖人ご誕生、立教開宗 二法要懇志金）

謹んでおくやみ申し上げます

九月十六日

末次

十月十二日

平方

十月二十五日

久留米

十一月五日

小郡

本堂への上がり道に追加の手すりができました

本堂の板階段には、すでに手すりが付いていますが、先ほど石段部分の両端に手すりが付きました。これは十楽の「平山美江子」さんよりの寄贈であります。誠にありがとうございます。



(写真は平山さん)

二〇二二年度の年忌法要

来年、二〇二二年（令和四年）の年忌に該当する年は、次のようになっております。該当するかどうかは、お正月本堂に掲示します「年回表」をご覧ください。

真宗では、一周忌から百回忌までを年忌としております。五十回忌で終わりではありません。

せんので、ご記憶ください。

また、一周忌のみ一年目です。三回忌以降は、数え年で計算します。満年数より一年早いのでご注意ください。

一周忌	二〇二二年（令和三年）	没
三回忌	二〇二〇年（令和二年）	没
七回忌	二〇一六年（平成二十八年）	没
十三回忌	二〇一〇年（平成二十二年）	没
十七回忌	二〇〇六年（平成十八年）	没
二十五回忌	一九九八年（平成十年）	没
三十三回忌	一九九〇年（平成二年）	没
五十回忌	一九七三年（昭和四十八年）	没
百回忌	一九二三年（大正十二年）	没

ご法事を、土曜日・日曜日にされるようでしたら、早めにお知らせください。

土、日はご法事の希望が集中しますので、ご希望が適わない場合が予想されます。平日もどうぞお考えください。

なおご法事は、年忌該当の年であれば、その年の中で済まされればよいので、ご命日前でも、ご命日後でも構いません。

（但し十二月三十一日は、翌日でなく十二月三十一日まで済ませましょう）

また原則、ご法事をお受けする時間については、午後に葬儀が入っても支障のないよう、自宅でされる場合は十時半、本堂での場合は十時としてお受けしております。

お正月のお内佛（仏壇）のおかざり

・金属の仏具は金属磨きで磨きましょう
拭き上げをしっかりとします



・打敷きを掛けましょう
・花は、松や桧、槇などを真にして花を添えましょう



・お餅を、お鏡にして供えましょう